

コロナ禍における大学は今

平成29年4月よりスタートしたスポーツ健康学部が今年4年目を迎え、3月には第1期生を送り出すことになりました。本会では、同窓生も5,000名を超え、2学部になる体制から会員が増えていくことで、思想も学習体系もまったく異なる卒業生が交わることから、大変大きな化学反応がおき、会が大きく発展することと確信しております。

母校の公務員合格者数は43名（1月末日現在）となっており、昨年の同時期よりも12名多い人数となっております。来年度の公務員対策講座は、2月15日から4日間、コロナ感染防止から三密を避けるためオンラインで講義を行いました。校友会からは、一人でも多くの学生が希望の職種に合格できるように参考書を寄贈し応援しました。

本会の今年度における活動は、コロナ禍にて通常総会など対面での開催が難しい年となりました。来年度は、このような状況が一日でも早く改善され、同窓生同士が再び笑顔で事業を行えることを心から願っております。

日々変化していく時代の中で



校友会会長 高井 勝弘

平成国際大学では、今年初めてスポーツ健康学部より卒業生を送り出す画期的な年となります。同窓生が増えていき、法学部以外との交流ができることを大変うれしく思います。

さて、社会に目を向けますと、新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、年明け早々の1月7日から緊急事態宣言が発出され再び大きな混乱がおこりました。大学の卒業式においても各教室で式典の配信映像を視聴しながらの式となるなど、私たちの身の回りの生活は大きな打撃を受けております。しかし、コロナの悪影響とは裏腹に、接触を避けるためテレワークが一足飛に発展し、次々とオンライン会議システムのサービスが生まれてきました。本会としても多様化していく時代の中であっても、会員皆様と母校の明るい未来のために支援していきたいと考えておりますので、今後とも同窓生の皆様からのご支援とご協力をお願い申し上げます。



第11号

2021年3月発行

学校法人 佐藤栄学園
平成国際大学 校友会会報

新型コロナウイルスと大学

平成国際大学 学長 柏木 俊彦



同窓生の皆さま、今日は。新型コロナウイルス感染症の拡大は、大学にも極めて大きな影響を与えています。2020年度の入学式は出席者を制限し、時間も短縮したうえで開催となり、春学期の授業は、対面での授業は中止のやむなきに至り、学びを止めないための可能な選択としてオンライン授業となりました。その後も新型コロナウイルスの感染は収束する兆しを見せませんでした。が、秋学期には、細心の感染防止の注意を払ったうえで、一部の科目で対面授業を再開しました。しかしながら、本年1月7日には、再度、緊急事態宣言が発出されたため、再開した対面授業をオンライン授業に変更せざるを得ない事態となっていました。

本来、大学は同窓生の皆様をも含めた出会いの場でありま。しかし、残念ながら、本年3月の卒業式及び4月の入学式も新型コロナウイルスの感染状況から判断しまして、2020年度と同様な措置をとらざるを得ない状況です。

新型コロナウイルス感染症のなか、同窓生の皆さまのご健康を祈念しますとともに、引き続きのご支援とご協力をよりしくお願い申し上げます。

コロナ禍の副産物

校友会顧問 法学部教授 浅野 和生



新型コロナウイルスのパンデミックから丸1年が経過しました。大勢での会合は否定され、人の移動が抑制される一方で、オンライン授業の形で、日本中どこにいてもそのまま授業に参加できる態勢ができました。それもライブであったりオンデマンドであったり、各種の会合形態に習熟することになりました。その結果、多すぎればうまくいきませんが、10人程度ならオンラインの会合もスムーズにできることがわかってきました。これで空間的距離を超越できますが、ある意味で時間も超えられる気がします。つまり、教師と現役学生と、そして1年前、10年前、20年前の卒業生が容易にコミュニケーションをとれることになったわけです。せっかく手に入れたツールですから、これを活用して、タテヨコのつながりを拡大できたら、同窓の会が人生をさらに豊かにするきっかけになるでしょう。新たなOB・OG会合の在り方を創りだせるとよいと思います。